



あっちの話



茨城から

ハウスのコナジラミ対策にヤクルト水

石山桃子

ハウスでナスを栽培している常陸大宮市の大貫寛一さん。春にどつと増えるコナジラミとハダニに困っていました。受粉用のマルハナバチ

に長く活躍してもらうためにも、なるべく農薬は使いたくない。そんなとき、『現代農業』2018年6月号のヤクルト水散布の記事を見て、さっそく試してみることになりました。

やり方は、市販のヤクルトを水で100倍に薄めてまくだけ。大貫さんは、15aのハウスで1回15本（1本80ml）のヤクルトを使います。散布は冬から春にかけて月2回ほど。冬のうちから害虫の密度を減らしておくのがポイントです。

ベタベタした液が気門を塞ぐのか、乳酸菌のせいなのか、ヤクルト水がかかった虫は徐々に動かなくなつて死んでいるとのこと。「ハダニもコナジラミも減りましたよ」と嬉しそうな大貫さん、特にコナジラミに効果があったそうです。



群馬から

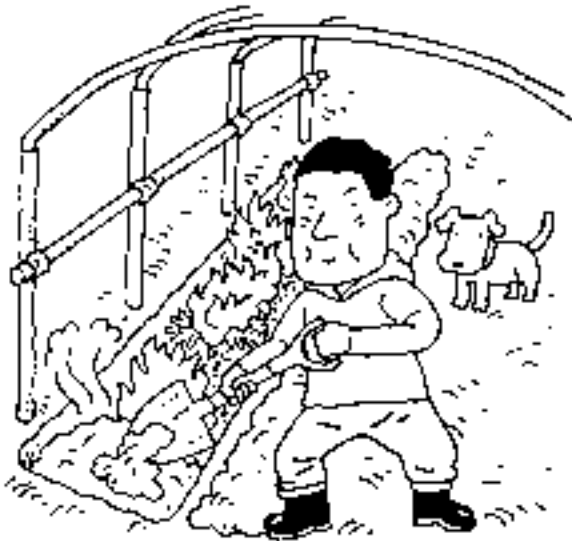
土壌消毒はスギの葉をじゃんじゃん燃やす

堀籠勇希

トマトの土壌病害で厄介な青枯病。一度発生すると、なかなか手に負えないですよ。高山村で100種類もの野菜をつくる直売農家の畠山次男さんは、ハウスでつくるミニトマトをもう5年も連作しています。「クロピクに頼らなくても青枯病は全然出ない!」と畠山さん、その秘訣は土を焼くことだそうです。

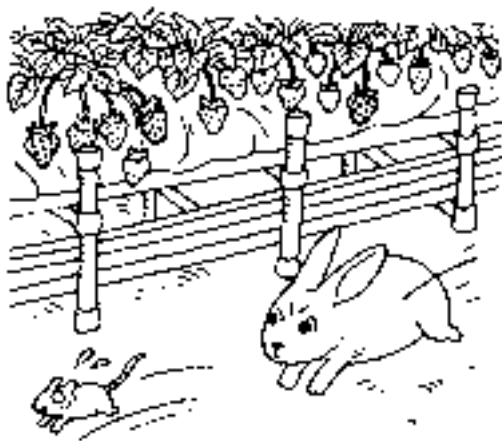
そこで活躍するのがスギの葉。油分を含みよく燃えます。作が終わったミニトマトのウネを深さ60cmほど掘り返したら、その溝の中に裏山からとってきたスギの葉をどっさり入れて準備完了。点火して火が大きくなったら、掘り上げた土を上からかぶせてしまうのです。部分的に覆土しないとところをつくって空気の通り道さえ確保すれば、スギの葉は最後までちゃんと燃えるそうです。

こうして畠山さんは、2年に1回土を焼いています。





あっちの話



福岡から

えっ!? イチゴハウスにウサギ!?

香川貴文

桂川町^{けいせん}のイチゴ農家・高嶋直道さんのハウスに入るとウサギがいてびっくり。なんとネズミよけになるんだそうです。

ネコを飼う案もありましたが、ネコは高設ベ

ッドに上ってしまうので衛生的にちよつと不安。インターネットで調べて候補に挙がったのがウサギでした。ハウスの外に小屋を建て、ベツトシヨップでウサギをつがいで購入。ハウスの周辺で放し飼いにして4年たち、今は9匹います。

ウサギは縄張り意識が強く、自分より小さい動物がテリトリーに入ってくると攻撃。でも、大きめの動物が来ると隠れてやり過ごすそうで、イタチなどにやられたことはありません。逃げないのも不思議です。

「前は、ネズミのせいで200万円の被害が出たこともあったけど、今はぐんと減ったよ」と高嶋さん、ウサギがネズミを捕まえてくるのを何度も見えています。ハウスまわりの草を食べてくれるところも気に入っています。

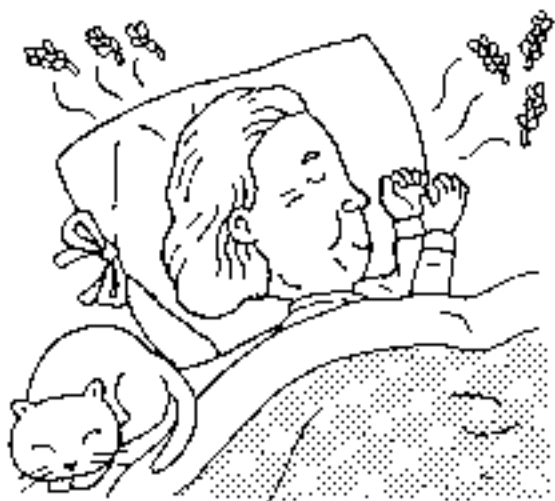


秋田から

ラベンダーの香りただよ ソバ殻の枕

橋本康範

道の駅の直売所「おらほの館」で野菜を販売している八峰町の柴田和さん。自作のソバ殻枕



も年中商品棚に並べています。

枕づくりは、御年83歳の柴田さんの農閑期の仕事です。冬の間にミシンで布袋と枕カバーを縫い、ソバを生産する息子さんからソバ殻をもたらってきます。

この枕、両側についているヒモを調節することとで、ソバ殻を寄せたり均したりできるスグレモノ。枕の高さを好みに合わせて変えられるのです。

柴田さんが庭で育てるラベンダーも入っています。乾燥させて刻み、ソバ殻に混ぜたところへラベンダーのアロマオイルもさーっとかけてあるので、香りが安眠を誘います。

生地質にもよりますが、1個10000〜15000円で売っています。この枕さえあればぐっすりですね。



あっちの話

島根から

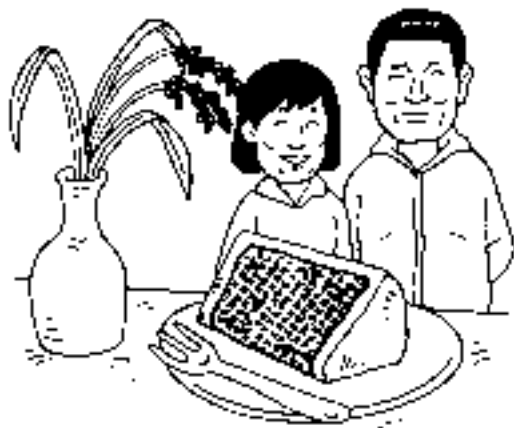
黒米粉100%のシフォンケーキ

藤川直人

吉賀町の山吹寛さん・里子さん夫婦は乳牛を飼いながら、地元産の木材で建てたログハウスで農家レストランを営んでいます。お宅にお邪魔すると、コーヒールと一緒にシフォンケーキを出してくれました。黒っぽい色だったので、ゴマを使ったものだと思いましたが、ゴマの風味は感じられません。

そこで山吹さん夫婦が種あかし。なんとこれは黒米粉100%のシフォンケーキでした。

山吹家が黒米を栽培して33年。最近では昔ほど売れな



なくなってきたみたいですが、アントシアニンやミネラルを多く含む黒米だからこそ、たくさんの人に食べてほしいとこのシフォンケーキを考案しました。近くの製粉所になるべく細かい米粉にしてもらうよう頼み、自慢の搾りたて牛乳も使っています。

ふわふわした食感の後に、黒米のもっちり感と素朴な味わいが広がり、このおいしさ、止まりません。もう一切れただけですか……？ そんな心の声を押し殺し、素敵な夫婦とお別れしました。

ふわふわした食感の後に、黒米のもっちり感と素朴な味わいが広がり、このおいしさ、止まりません。もう一切れただけですか……？ そんな心の声を押し殺し、素敵な夫婦とお別れしました。